

会 議 記 録

政策企画局 市民参加・協働推進課

開催日	平成 24 年 6 月 18 日(月)	開催時刻	15 時 00 分から 16 時 30 分
会議名	上田中央地域協議会(平成 24 年度第 3 回)		
出席者	浅井委員、飯島委員、尾沼委員、河田委員、神林委員、栗内委員、佐藤委員、塩入委員、中村一樹委員、藤川委員、松澤委員、宮坂委員、宮島委員、宮本委員、村上委員、矢島委員、山浦委員 (欠席委員)久保田委員、中村彰委員、渡邊委員 (事務局)神林地域振興政策幹、北沢市民参加・協働推進課長補佐、堀内市民参加・協働推進課主査		
会議次第	<p>1 開会(事務局)</p> <p>皆さんこんにちは。大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻になりましたので只今から会議を始めさせていただきますと思います。</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>皆さんこんにちは。上田も梅雨に入ったわけですが、これからしばらくうっとうしい天気が続くと思います。体調の管理も気をつけていただければと思います。先日、上田地域の自治会長さんと研修で岩手県の陸前高田市と宮城県の南三陸町へ視察に行ってきました。テレビや報道で見たところを初めて見てきましたが、生で見る状況というのは本当に凄いもので、特に瓦礫の山が印象に残りました。長野県は阿部知事の考え方もあり瓦礫の受け入れは非常に消極的だと私は思いますが、このような災害の時は何とかお互いが助け合って長野県でも例えわずかでも受け入れをして瓦礫を片付ける機会があればと思いました。本当に 47 都道府県で受け入れてくれるのはほんのわずかですが、瓦礫を片付けなければ復興はなかなか難しいのではないかと思います。いずれにしても地域を見てきて、早い復興を願ってやまない思いで帰ってきました。</p> <p>6 月議会も続けられておりますが、中央地域にも様々な課題が残っています。その中で今回は先日の会議でもお願いしましたとおり、この協議会において調査・研究する課題を出していただいて、皆さんと協議いただく中で課題についてまとめていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>		

事務局： ありがとうございます。それでは協議事項に入りたいと思います。

3 協議事項

資料・中央地域協議会第4期の取組課題について

会長： では本日は「地域の課題」について協議したいと思います。皆さんから26件の課題を出していただきました。最初にこの課題の提案者から簡単に説明をしていただいて、その後皆さんと協議をしていきたいと思います。お手元の資料、「第4期の取組み課題について」地域まちづくり方針の「新市の核となる都市機能の充実と中心市街地の活性化」の項目から、今回出していただいた課題を説明していただきたいと思います。

委員： それでは、提案させていただいた課題についてもう少し補足したいと思います。地域の婦人会は主に祇園祭のお手伝いや、自治会のお手伝いをしていて、その会で中心市街地の活性化について疑問に思っていることを話し合ってみたところ、上田のお祭りについてご意見が多くありました。特にねぶた祭りに関してのご意見が多く、上田市としての利になるお祭りなのかどうか、と皆さんが疑問に思っておられました。

それから、真田まつりの民謡流しがマンネリ化している。やはり地域の皆さんがもう少し盛り上がるためにお祭りに何かひと工夫が必要ではないかと思う。

それから、千本桜祭りで観光案内ボランティアとして参加した時に、団体でお城下の駐車場から来たお客様が集合時間になり、駐車場へ帰ろうと思っても来た経路が分からない。どこを歩いていけばよいのか多く訪ねられました。駐車場へ戻る道案内も場内（上段）に必要なと思う。それから、下の駐車場のトイレは良くできていますが、上の公園内のトイレが不十分に思う。又、お土産を買うのにいちいち下に降りないといけなくて、公園前の道を横断しなければ買いに行かれないという不便さを感じさせられました。やはりこれからさらに大きなお祭りになった時に、これで対応は十分なのかと感じました。

それから私の孫が上田市と同じ人口規模を有する犬山市にいますが、犬山には子供たちが親子で芝生の上でサッカー等、のびのび遊べる場所がありますが、上田には殆んどない。また、娘はオーストラリアにいるが、全て公園の中は木のチップが敷かれていて、子どもやお年寄りが転んでも痛くない、ケガをしないように配慮、整備されている。やはり上田の城跡公園もそのような配慮がある優しさが必要ではないかと思った。公園の桜の時期が終ってしまった時に、何かを見に行こうと思っても見るものがないと思う。先日、小布施のオープンガーデンに行き、市民と観光客のためにととても素晴らしい庭がたくさんできていました。素晴らしいガーデニン

グが小布施のあちこちにありましたので、上田も同じようにとはいきませんが、上田市の中には庭を見に行こうという場所があるのかなと感じた。

会長： ありがとうございます。ひとつお説明を聞いた後に皆さんからご意見をお聞きしたいと思う。お願いします。次の方、説明をお願いします。

委員： 私は今回初めてこの会に参加させていただいたので、この会はどんな事まで出来るのか具体的に分かりませんが、これから10年、20年、30年先の上田の人口や人口構成が、今、私達が想像している以上に極端に変わっていくということをきちんと認識しないと私共が、一生懸命検討していることがあまり意味のないものになってしまうと思う。私達は、正直言って良い時代を生きてきたのでこのままの状態が20年も30年も同じ状態でいく想定で議論していると思います。そのことに関しては事務局の方にも実際の数字、人口の構成、これから10年、20年どのように推移していくのか、あるいはそれに伴って上田の財政はどう変わるのか、を知った上で何が必要なのか。今年できること、中期的に必要なこと。では次の世代、10代、20代の若者に私達は何を残せるのかをしっかりと考えないといけない。そのような意味でこの地域協議会はどこまで話しが出来るのか分からない。私は、まちづくり方針の1番と5番を書かせていただいたが、このことをこれから考えていかなければいけないと思った。これからの適正規模にあわせて街のランドデザインに繋がるよう考えていきたい。

委員： 上田市の公共交通網が充実してはきているが、まだ、青バス、赤バスという名称が私は分かりにくく、路線的なことで名称が違うのではなく、運行しているバス会社の違いで名称が分けられている。利用者の立場に立っていないのではないかとと思うのと、オレンジバスに乗った時は車掌さんが付いていてとても親切でとても良かったと感じました。しかし、オレンジバスは塩尻方面と神科方面しかなく、中心市街地で乗り降りできるものではない。やはり、循環バスの名称や、行き先が分かる案内板等の整備が必要です。それから個人的な意見ですが、駅前のイトーヨーカ堂の跡地にバスターミナルを建設していただいたら良いと思う。松本市は駅前にバスターミナルがあり、お店も入っている。松本市はとても親切でバスのコンシェルジュさんもいて路線も教えてくれて適切に対応してたように記憶しています。松本市は駅前にあるが、長野市は少し離れているところにあり、不便。上田市も駅前の土地が空いているのでバスターミナルが出来たらありがたい。これから高齢化社会になり自分で車を運転する人が少なくなる。バスもタラップが高いのではなく、タラップが低く、バスの真ん中から乗り降りできていて車椅子とかが乗れるようなバスを使って欲しいと思う。

委員： 私は、交流・文化施設を建設するというので、既に決まっていますこの前も図面や映像を見させていただき素晴らしいものが出来るんだなと思った。これに関しては反対されている方もいますが、ここまでくると市民の意見はどこまで反映されているのか。市民の意見を入れてもらえるようなシステムになっていないのかなとも思った。更にトップの方で色々やっていてなかなか私達が見えない部分があったりするの、これは市民の目線に降りてもらい、市民の意見を入れて欲しいなと思う。利活用できる部分に市民の意見を反映できればと思う。

この前、一般質問の中で三井議員が、原田泰治さんの件について質問して驚いたのだが、これは市民参加・協働推進課とは別で、政策企画局長からお話をお聞きしたいと思った。市長の個人アドバイザーと言う事で月々2万円が出ていると私達も初めて知るのだが、それは市民には理解できない部分なので、その部分も説明していただきたい。また、もっと市民の声を反映・活用できたら良いと思った。

また、上田駅前について、上田駅で降りた時にイトーヨーカ堂跡地が空いていて上田市の玄関口としてどうかと思う。先程の意見、バスターミナルの声もあります。これは私有地ですので市民の声がどこまで入れるのかは分かりませんが、市民の要望があるのでこのように考えてもらえませんか。というくらい要望がまとめれば良いと思うので、研究する価値はあると思う。県外から来るお客様にとって、駅前が空いていて観光をリーディング産業といわれている上田市としてどうなのかと思う。バスターミナルに、観光案内所、交流の場と、皆さん色々なお考えをもっていると、そのような研究ができれば良いと思う。

委員： イトーヨーカ堂の跡地について、夢を言えば、上田市連合婦人会で視察研修に埼玉県戸田市へ行った際、リサイクルセンターへ行ったが、小布施のフラワーガーデンのような施設が建てば良いと思う。生ゴミ堆肥で花の公園に。最初は無料でも入場有料にしたら良い。

会長： ありがとうございます。1のまちづくり方針について説明させて頂きましたが、皆さんから質問等を議論していただきたいと思います。

委員： 私は2番目の項目に書いてあるが、話を聞く中で1番に移行しても良い内容だと思うが、どうしたら良いか。

会長： では、書いていただいた内容は1の方に移動させてください。

委員： やはり、駅前は私有地だから難しい問題だと思う。借りるにしても借り上げるにしてもお金の問題で、採算が取れるようにしないと。

会長： いずれにしても、今回出して頂いた意見から3つぐらいに絞って、次回、部会に分かれて議論していただきたい。今日は説明を聞いて、皆さんの意見も聞いて次回、絞っていききたいと思います。それで、先程の意見で、10年20年後の先の上田市の人口推移は確か、上田市の総合計画のところで出しているような気がした。もう一度出してもらって、財政状況も分かる範囲まで出してもらい議論していきたい。次回までに出してもらうのはできますか。

事務局： はい。分かりました。

委員： 良いですか。私も今年、初参加で、この会はどのように流れていくのかわからないのですが、皆さん上田にお越しいただいた観光客の目線で、食事処やお土産店と色々な意見がありましたが、それを地域のメリットがあるような形で、展開していくことを考えられれば良いと感じています。交流・文化施設もそうですがやはりどこか大きな企業がやってきてそこで商売をしてくれるのもメリットではあるが、地域の力にならないような気がする。手間はどちらにしても掛かるが、出来れば地域でお金が回るような仕組みづくりに視点をもって進めていかれば良いと思う。私は自然エネルギーのことを進めようと思う。大企業が来るのも良いが、それでは地域の力が付きにくいと思う。経済の面でも地域力の面でも、地域が自立して動いていけるような視点も加えてもらえたらと思った。

会長： 公園の意見も出ましたが、現在、元の第一中学校の跡地はツルヤとひとまち元気健康プラザとなっている。建設する前に北部地区連合会で是非、緑地公園にしてもらいたいということで意見をあげたのだが、駄目で現在のようなになった。しかし、施設が決まった時、駐車場のスペースを減らして緑地もできる様、要望したが、当初の計画よりも公園スペースが増えた経過があった。上田市には緑地公園は少ないのが現状だと思います。

委員： 私は、今、問題としたいのは「防災」についてです。芝生を防災目的で避難場所を兼ねて総合的に考えていかないと前に進まない。昨年の大震災前は国や県はため池について消極的な意見が多かったですが、福島県のため池が決壊した以降、検討しようとする全国的に言われている。公園もそうですが総合的な避難場所も考えていかないといけないかなと思っている。

会長：他に何かありますか。とりあえず先に進んでご意見伺いたいと思います。次に2番の「歴史遺産との融合・調和を図るまちづくり」で、説明をお願いします。

委員： これは前年度未完のテーマ「歴史的資源の魅力ある地域づくりや観光振興への活用について」を研究しようと思ったのですができなかった。その時思ったのが、この地域にはたくさんの歴史的資源があることが分かった。ただ、この資源を地域の皆さんはどれだけ知っているのか疑問があった。

委員： 前年度、この地域協議会の中で「歴史的地名の保存と活用」をやってきて提言も出来た。しかしながら、住居表示の変更はできなくて、旧地名をどのように活かしていくのか意見しただけで終わってしまった。ただ、もしそれが役立つのなら提言を生かした中で上田市が本当に具体的にこのようなものを取り入れていくのならやった意味もあるが、結局、話しただけで終わりでは中途半端になるのでできればもう少し市の方で具体的に取上げたこれからの取組の方向性をお聞きしたい。それから、上田城跡公園の整備計画について、中央地域として色々な形で関わりをもてたら良いと思って提案した。

会長： 事務局にお聞きしますが、意見書として提出したものはその後、市として具体的に取り組んでいるのかを知るには、これは何課の担当になるのか。

事務局： この23年度にご提言いただいた歴史の関係ですが、ご提言いただいた後、市民参加・協働推進課が窓口になり具体的にどのような活用方法があるのか、今年の3月に庁内で全体的な組織を立ち上げて、これについては、これから動き出す状況になっている。基本的には、地域協議会からのご提言に沿うような、通りなどを上手く昔の地名を生かして活性化の取組ができないのか、関係課と打ち合わせをいただいてある程度のたたき台が出来た段階で、また皆さんにご説明するなり自治連の会長さんに状況をお話できたらと思っています。基本的に来年度の予算の中にどのようなものが入るのか、例えば通りの名前を生かした取組ですと都市計画課とか他にも関係課が関わっていますので、来年度予算に向けてどんな風にしていくのか庁内で検討していきたいと思っています。

会長： いずれにしても具体的にやっていきたいという方向ですね。

事務局： はい。基本的には市民参加・協働推進課で取りまとめるようになっています。関係課とも連携を図りたいと思っています。

委員： 今の件ですが、こっちから質問すれば答えてくれるのですが、庁内委員会を立ち上げたのも初めて聞いたので、やはり提言したからにはその辺の動きをバックしていただきたい。こっちが聞いてから答えるのではなく報告していただかないと言い

っ放しになってしまう。そのような事は、市の方から素早く報告して欲しいと思う。

事務局： はい。報告できるものが出来たら、お示しさせていただきたいと思います。

会長： トイレの関係も回答書の内容は立派な回答になっていたが、今の段階ではどこまで進んでいるのか我々は全く分からないので、進捗状況をこの定例会議の場で教えてもらいたい。それと上田城跡公園の整備計画について昨年5月も確か教育委員会の話を聞いた記憶はあるが。

委員： そうですねまた、途中経過を教えてもらいたい。

会長： ではまた、これも教育委員会に連絡を取ってもらい経過を説明してもらう機会をつくってもらいたいのでよろしくお願いします。

委員： 中心市街地活性化協議会の取組も含めてお願いしたい。

会長： それではそのことも含めて回答をお願いします。では次の説明をお願いします。

委員： 確かに去年、教育委員会からの説明をお聞きして、質問もしたのだが、この回答に私は納得していない。「選出された有識者で検討しているから、こちらでやります」という内容だったように記憶しているが、市民の声は反映されないのか。文化庁から言われている規定、決まった保存という視点のすり替えに過ぎないと思う。そうではなくて、私は上田公園というのは、市民の憩いの場として公共的機能が果たされていないのではないかと思う。議員からの話もあったが、子供たちが安心して遊べる場所がなかなか無い。上田公園の中は子どもだけでは遊んではいけない場所になっていて、不審者の出没等そのような安全面も含めてもっと市民の憩いの場所になるような提言を私達の中で出来ないかなと思い、上田公園の今後のあり方についてさらに検討をしていきたい。市民会館が無くなれば武者だまりとかそういったことだけではなくて、市民にとっての考え方と方向性を提言できれば良いと思っている。

会長： 「歴史遺産との融合・調和を図るまちづくり」ということで皆さんの方でも何かあったら出してもらいたいと思います。

委員： すみません。私も追加で書いてあるのですが、上田城跡公園整備について教育委員会の説明の中で30間堀に水を入れて欲しいというのが夢。手を入れてみたくな

る水を備えたい。それとトイレの件については先日、国宝土偶「縄文ビーナス」を訪ねて、この考古館に入って初めて出会ったすばらしいトイレだった。上田の博物館のトイレはもう少し何とかならないかと思った。

会長： それではテーマ2はこれで終わりにしまして、先に進めたいと思います。3の「すべての人々にとって安全・安心なまちづくり」について意見を出された方、説明をお願いします。

委員： 以前に松本の牛伏寺断層が、仮に地震を起こしたら上田も震度6強の揺れになるとお聞きした。それまで上田市は安全だし大丈夫だろうという安心があったのだが、町内会の話題になり我々はどこに逃げていけばよいのか。上田高校の庭に逃げるといふ人に、二中に逃げるといふ話もあり、現在二中は校舎工事中で、期間中は逃げられないという話もありこのような事が議論になった。また、一昨年鉄砲水があった時、被害に遭われた方が実際にこの中央公民館に避難されたと聞き、その際に毛布や備蓄の物が何も無かったそうです。それでは本当にいざという時には何も役にたたないので、もう少しこれを整備するような提言をして予算を付けたほうが良いと思う。この手の整備は無駄になってもしょうがないと思うが、実際にいざという時に役にたつような防災対策が必要だと思う。

会長： 一昨年8月2日の災害で、当時新田の自治会館が耐震診断改修工事のため使えなくて中央公民館にお願いして新田の人を避難させたのだが、毛布等、他に上田市として備蓄してあるはずなのに何も無かったのは事実です。これは大切な事だと思います。ではもう一つ説明をお願いします。

委員： 安全対策を講じようと思ったときに自分達の地域の中の危険場所のチェックも必要ではないでしょうか。やっぱり私たちも知らないといけないと思うので、その調査をするべきではないかと思う。住民も知る必要があるので調査したものをお知らせして防災マップのようなものがあれば良い。

会長： 自治会で配布された防災マップを貰っていないのか。

委員： あると思うが。

委員： その辺を自治会に聞いたら良い。

委員： はい。

委員： これは神川地域の要望なのだが、広域避難場所が大雨で河川が氾濫し浸水区域の恐れがある区域の中にある。これだと流されてしまう。本当に何とかしてもらいたい。

委員： ハザードマップを作成したのは広域避難所の指定をした後だった。だから、地域版の防災ハザードマップはあるが、それも修正もされていない。そのような状況でもあるのでこれは絶対にやらなくてはならない。

委員： まず、一次避難場所は、公民館や集会所といった自治会の施設が主体です。二次の場合は上田市が指定した広域避難場所へ避難することになっている。だから、神川地域の話が出ましたが、名前だけは防災センターになっているが、地域エリアも4地区合同で、仮に全員がそこに集まった場合、現実的には避難しきれない。たまたま、上田東高校が、エリアの中にあり避難場所を変えてもらいたいという話がある。地域の指定する二次避難場所は広域的に指定されているはずなので、自治会がそれぞれ把握し周知を図り、住民が知っているのは当たり前のこととされますが、実際には知られていない現実があります。

委員： 確かに今の災害の話で、自治会の役員の中では確認されていると思う。役員が変わったり、状況が変わり避難場所が工事中になった場合等、常に状況が変わるので周知徹底が非常に難しい。だからいつでも皆が分かっている形にしないといけないと思う。役員は分かっているけど住民に周知できていないと意味がない。

委員： もっと市の広報活動が必要だと思う。私は上田高校の近くなので、自分で理解している。やはり、市の方でも努力をして欲しい。なかなか住民まで伝わらない。

委員： 広報に入れるとか、色々なやり方があると思う。市民の目にとまるやり方をやらないと伝わらない。ここに逃げれば良いというようなマップ等を作成して、常にそれを発信してもらわないと結局、宝の持ち腐れになる。生活の中に染込ませていく工夫が必要。やりっぱなしだけではなくどうやって伝えていくか市としても工夫していただきたい。

委員： 今の皆さんの意見に賛成です。大地震の時に群馬大学の防災が専門の先生が、以前に岩手県の小学校に出向いていて、小学生や中学生に防災教育をしたようです。それで家に帰ったら家族と良く話し合って、災害の際はどこで落ち合うようにするとかどこへ逃げるか話し合ってくださいとお話したようです。そうしたらかなり効果があり、その小学校と中学校では犠牲者が出なかったようです。だから三役が知

っているのではなくて、住民一人一人に情報が下りてこないと逃げ場所が分からなくてウロウロしてしまう。防災教育を進めていただけたらと思います。

会長： では4番の「自然環境の保全と共生によるまちづくり」の課題について、説明をお願いします。

委員： 以前「生ゴミの減量化と活用について」意見書を出したがなかなか進んでいないと思います。今度、自治連で山形県長井市へ視察に行くのですが、これを見てきた後、上田市でもさらに取組を進める提言を申し上げられたらと思っております。

会長： 長井市は全国的にも進んでいる市ということですので、私も行かせてもらうので良く見てきます。続いて説明お願いしたいと思います。

委員： 自然環境の保護ということで前から思っていたのですが、アレチウリをご存知かと思いますが、木に絡みついて木が枯れるほどになっている。上田市の広報を見ていますと対応をしているように見えるが、現実には目に見えるような問題になっていない。このままだと信州上田のこの地域がアレチウリだけの緑になってしまうのではないかと危機感を感じていまして書かせていただいた。

会長： ありがとうございます。この関係について皆さんの方でもご意見ありましたらお願いします。それでは先に進みまして、5番の「保健・福祉・医療活動の拠点整備と人的資源の活用」は中央地域のまちづくり方針になっているのですが、これについての説明をお願いします。

委員： 私は団塊世代の人間で、私達が80歳くらいになった時、皆さんに大変迷惑をかける時代になるということを言いたい。それと、少し脾肉を言いますと、上田地域は医療に対しては過疎地域でして、何とかしなくてはいけないという話がありますが、なかなか難しい問題があるなと感じています。順天堂大学の教授が長野県は大変長寿に適した環境とおっしゃっていて真剣にその調査・研究されている方がおられるのですが、やはりいくら医療が進んでいても自分の事も含めてコンビニで食事を買って、生活バランスが崩れて、良い先端医療の病院に運ばれるのは本末転倒だと思う。ですから基本的には農業含めてこの地域の食生活をどのようにしていくのか、お母さん方がきちんと子供たちの弁当を作る。といった教育を検討していただけるのか、この会で長期的なことは難しいと聞いたのでこのような話は気がひけるのですが、でも検討した方が良いのかなと思う。

委員： 上田市の生活保護の問題に関して提案しました。この問題は、体が病気になり働けなくなってお兄弟がいても家庭内の問題もあり家族に連絡ができないとか、そのように色々な事情がある方がいて、一律ではない。色々なケースがあるのは想定できる。そのようなことを詳しく市の方からお話聞けたらと思い提案した。

会長： では次の方、説明をお願いします。

委員： 私は上田で生まれて一度外へ出てそれから上田へ帰ってきました。上田市は温暖で住みやすく、全国的に災害も少なく、交通の便も良い。しかし、この地域をもっと良くしていかなければならない。それは安心・安全の問題だと思います。一つは自然災害の問題で、もう一つは健康の問題をきちんとしなくてはならないと思う。信州上田医療センターが色々な面で大分変わってきている段階だと思います。信州大学が非常に力を入れていただいているようです。それと新しくなった産院をどうするのか。という問題もあります。このように色々動いている中で市民の立場からどうするかきちんと考えて、私達も関わって市民が利用しやすい医療体制について、遅れている二次医療、三次医療に対しても行政と一緒に考えて進められたらと思います。総合的に安心・安全の立場から医療の事を取り上げて親しみやすい市の医療体制を考えていきたい。

会長： 次の方説明をお願いします。

委員： これはテーマになるか全く分からないが、実態を知った上で精神的にでもバックアップいただけたらありがたいと思って提案しました。この4月から「つむぎの家」という重症心身障害者の施設を上田市から委託されて運営しています。重症心身障害者は歩くこともできず、さらに知的障害をもち、場合によっては命に関わるような危険を背負った方達です。その方達が、生きていくうえで家族だけの補助ではどうにもならない。特に医療との連携が必要なのだが、上田市の場合まだそこまでの連携が取れてないのが実態。これは市長にも別の形で提言しているのですが、一番社会的に弱い方達なので充実した形で医療機関と連携していつでもお医者さんが駆けつけられて、24時間医療が受けられるようにしてもらいたい。これは社会的テーマだと思う。この中央地域協議会で議論できることではないと思うがこのような実態が上田市にもあり、お産の問題、命に関わる問題なので、ぜひ医療・福祉に関連した形で皆さんにも関心をもって欲しいので提案させていただきました。

会長： 続いてをお願いします。

委員： 念願の市立産婦人科病院が出来、事務長さんから以前、説明もお聞きしたわけですが、その中で手術ができないリスクが高いお産の割合でどのくらい新しい所で対応できるのか質問したところ今までと同じ数字だった。では今まで産院でできない出産はどこで出産するのかの質問に、篠ノ井か佐久に行くようです。それではせっかく建てた建物なのに医療内容はあまり変わらないことに疑問をもった。

前の院長の甲藤先生が信州上田医療センターの方に復帰されると新聞を見た。そこの連携ができればいいがどうなのか。建物はできたが体制については不安がある。その他に、お産で通院されている方のお話をお聞きすると上の子供さん、小さいお兄ちゃんお姉ちゃんを連れて来ると騒いだりするので連れて来て欲しくないとか、子供用のスリッパがないとか、コンセプトがあるようだが、私は何か違うと思っている。市民の意見を聞いたり、命の危険の時はどうするのかもう少しきちんと考えないといけないのかなと思った。これは先程の委員さんの「上田市の医療の充実」の中に含まれる部分だと思うが、上田市は医療過疎というのは市民の中にも意識はあると思う。

会長： 今、説明した中でご意見があればお願いします。

委員： 私も時々、病院に行きますが駐車場の関係について、一階は市立産婦人科の駐車場と決められていて医療センターに訪れる人は二階に回されます。というか、自主的に回らなければいけないのだが。そのことを周知徹底すれば駐車場についてはスペース的には十分間に合うと思います。相当広いですから。

委員： そうですか。ありがとうございました。それから、託児室があれば小さいお子さんを連れてきても良いと思う。部屋を一室スペースにすれば託児は十分可能なので、上田女子短大の幼児教育課もあるし短大生にアルバイトやボランティアとしてお願いしても良いと思う。

委員： 診察に子どもを連れて来てはいけないということですか。

委員： そうみたいです。

委員： それは無理ですね。

委員： でも感染症の問題もあって雑菌を持ったまま入られると非常に危険ということもあるので、どこの病院でも、お産をする病院の場合、病室に小さい子供さんはご遠慮して下さいということだと思います。これは当たり前の話で、特別なことでは

なく説明が足りないのだと思う。

委員： 結局、上田の産婦人科病院は正常分娩なんですよね。だから危険な状況になった時、担当するのは当然医療センターだと思うのですが、でも体制がとれていないから佐久や篠ノ井になってしまう。やはり医療体制を充実させる方が大事。産婦人科病院自体、あまりにもそういうシステムを入れ込まないようです。医療センターの方を充実させる。という形にもっていかないといけないと私は思う。

委員： 一つ問題は、役所が運営している産院だから必ず時間が決まっていて、何時から何時まで予約の電話をしてそれから来るようになっていて、24時間オープンではない。はっきり言えば非常に都合悪いと思う。働いている人が民間の病院と違うかたちで運営しているから。

委員： お産は待ったなしだからね。

委員： そうなのです。いつ起こるか分からないからいつでも受けてくれるようにオープンにしておかないと意味がない。いざという時は対応してくれるが。先生がいなくなると。

委員： では何のための産院なのか、私もこの前質問したのですが、里帰り出産は今までお断りしていないと聞いていたので、安心していましたが聞いた話ではお友達に勧めたらダメだったとお聞きした。待望の新しい病院ができたので市民が使い勝手が良くなるようにしてもらいたい。ただ、建物が良くなったでは意味がない。このような現状では今後が心配である。

委員： かつて東信病院といわれた国立病院が全く似たような体制があったのですよね。それは全国の国立病院は似たような体質があるようですが、その辺の安心安全を考える中で、我々は積極的にものを言って変えて欲しいと訴えていくことが一番大切だと思う。お役所仕事で終らせて欲しくないという意見と、お医者さんの人員確保を進めていく中で両面から声を上げていくことだと思う。そういった意味でもこの問題を取り上げていくべきだと思う。

委員： 今の話は非常に重要なテーマだと思う。提言していくことでいくらかでも何とかなるようなテーマだと思う。

委員： 先ほど医療センターから充実すれば良いという意見もあったが、私の知り合い

の看護婦さんからお話を聞いたら産婦人科病棟はスペース的には空いているようです。だからそこを充実していただいてこの会としてもお願いしていけたらと思います。

会長： では続いて6番の「地域コミュニティを中心とした協働による地域を誇れるまちづくり」の説明をお願いします。

委員： きれいなまちづくり、防犯等に含めての話とさせていただきたいのだが、私の地元では空き家が非常に多い。高齢者の一人住まいも非常に多くなってきていますが、その高齢者の方が亡くなると跡を継いでくれる人がいないため空き家になる。特に私がお願いしたいのは、地域内に市営住宅が多くあり、かなり古い住宅になっている。困ったことに庭の木が荒れ放題。近所から苦情があります。それと住んでいるはずもないのに窓が開いていたりして、市営住宅の管理はどうなっているのか、使用しないのなら壊して建て直して新しい方に入居してもらうか、かなりの土地もあるので、公園にしたり土地を有効に使って欲しいと思い提案した。

会長： ありがとうございます。まだ皆さんからご意見ありましたらお願いします。市営住宅の関係も地域協議会で聞いたことが無いのだが、市営住宅の建替え、マスタープランの説明もしていただいた方が良くと思うがどうでしょうか。

委員： リーマンショックの時に外国の方達が斡旋会社で借りていたアパートに住んでいたのだが、斡旋会社も潰れてしまったので急ぎよ空いていた市営住宅に住まわせていただいてそれで生活されていきました。風呂もシャワーもないからお友達の家に行って使わせてもらっていたようです。神川地区にペルー人の方がだいぶ住んでいる。ところが、会社が海外の方に移転してペルーの方は殆んど解雇されて、その方達はいつの間にか県外に引っ越してしまったようです。私達の会もペルーの方と交流を考えていた。多分、神川地区の古い住宅にそのまま直して住めるような住宅ではなく、とても生活に不便な住宅に住んでいたと思う。とてもそのままではいけない。

委員： 確かに市営住宅は荒れ放題です。でも人は入れないようです。災害時や、その外国人のケースのような時に空けておくようです。住めるようで人を入れられない。そうかといって壊す訳でもない。

会長： この市営住宅の関係は住宅課という専門の課があるのだから説明してもらった方が良くと思う。お願いします。では最後に「その他」について説明をお願いします。

委員： 地域内分権第 4 ステージということで地域協議会と自治連の関係と両方絡んでくる問題で、これからどのように進めていくのか、これももう少し詳しい話を聞きたいと思う。この前聞いたがよく分からない。

会長： その都度説明してもらうわけで、またこの問題については市の方から地域協議会に対して意見を求めるということではないのか。

事務局： 意見を求めるというよりは基本的には自治会とのすみわけ、地域協議会と自治会との懇談の場、地域で活躍されている団体の皆さんを交えた懇談の場を今年、来年あたりにもっていかれれば良いと思う。そこをどのようにしていくかはこれから検討させていただきたい。これからは自治会の皆さんと話し合いの場を設けていただいて徐々に広げていかれればと思っています。

会長： 新たな自治組織ということで、色々な自治会との兼ね合いで非常に難しい問題も出てくると思う。以上で皆さんからの説明は終わりましたが、全体を通して意見ありますか。

委員： 県営住宅の件で一昨年あたりから、みずず台は県営住宅の建替えで話が進んでいました。しかし、今年から全部中止になりました。詳しい事は次回までに調べて報告したいと思います。

会長： ありがとうございます。今日の説明と議論していただいたことを踏まえて、次回までに課題を個々に決めてきてもらいたい。

会長： それでは本日は終わりにしたいと思います。ありがとうございます。

4 次回会議の開催と日程について

第 4 回中央地域協議会 平成 24 年 7 月 10 日（火）

第 5 回中央地域協議会 平成 24 年 8 月 20 日（月）

5 閉 会